

新聞協会の地球温暖化対策の取り組み

2021年3月1日

一般社団法人 日本新聞協会

目 次

はじめに

1. 新聞協会の概要
2. 新聞協会の環境対策の取り組み
3. 加盟各社の環境啓発活動
4. 最後に

はじめに

新聞は、国の内外で日々起きる広範なニュースや情報を正確に報道し、多様な意見・論評を広く国民に提供することによって、民主主義社会の健全な発展と国民生活の向上に大きく寄与している。

新聞が果たす公共的・社会的役割は、全国津々浦々に張り巡らされた戸別配達網・新聞販売所の活動によって支えられている。

デジタル化が進み、多様な情報伝達手段が登場する今日だが、新聞は中核的メディアとして機能している。

1. 新聞協会の概要

加盟社数：新聞103社 通信4社 放送22社 (2021年3月現在)

新聞社従業員数：97社（法人単位）3万7520人（2020年4月現在）

発行部数：3509万1944部（2020年10月現在。朝夕刊セット1部換算）

戸別配達率：95.51%（2020年10月現在）

1世帯当たり部数：0.61部（2020年10月現在）

1. 新聞協会の概要

新聞は正確な情報と公正な論評で
民主主義の発展に寄与する

⇒次代を担う子どもたちや学生、若手社会人に新聞の大切さを知ってもらうことが重要な課題。

1. 新聞協会の概要

新聞が届くまで

輸送経路は複雑かつ多岐にわたるが、輸送会社(外部委託)は、ルート shortest化や共同輸送などで工夫している

新聞社
●
通信社



印刷工場

輸送会社

(別会社)

販売所

読者

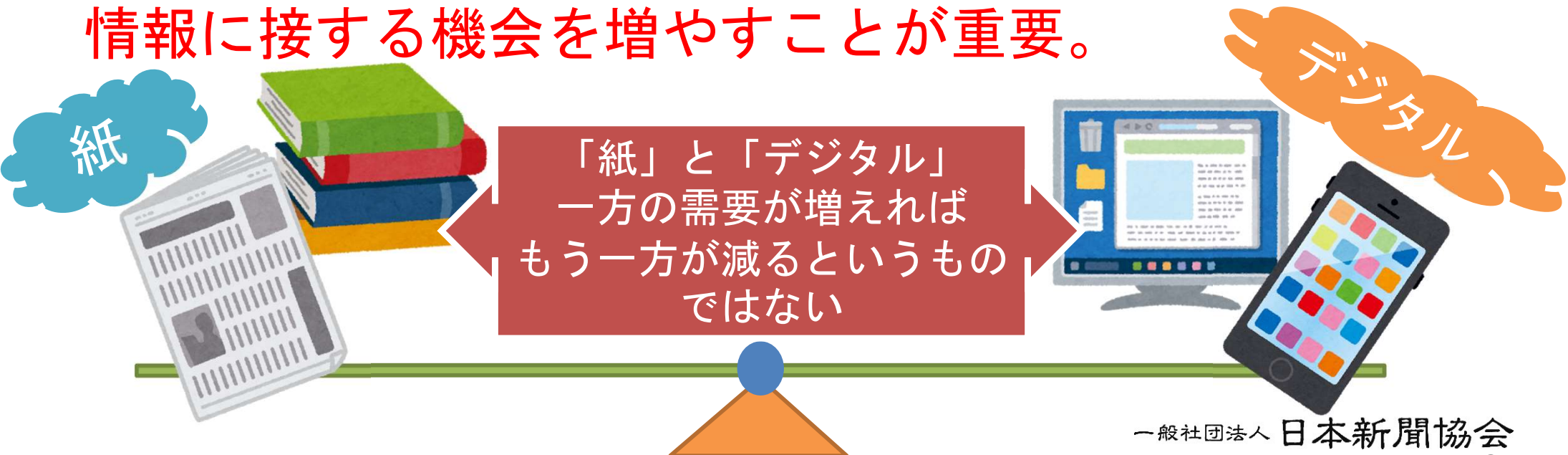
独立事業者

※折り込み広告(新聞に折り込んであるチラシ)は、新聞社から独立した新聞販売所の事業。

1. 新聞協会の概要

紙とデジタルの関係

報道機関が地球温暖化対策に貢献する手段は、国民にあまねく情報を伝達すること。この使命を全うする媒体として、我々は、環境負荷低減を目的に「紙」を減らして「デジタル」媒体を増やすという考え方はとっていない。「紙」か「デジタル」かの以前に、国民が情報に接する機会を増やすことが重要。



2. 新聞協会の環境対策の取り組み (基本認識と対応)

基本認識と対応

新聞・通信社は、企業として、省エネ・リサイクル活動を推進し、地球温暖化防止に向けた努力をする。

新聞・通信社は、報道・言論・事業活動を通じ、環境問題に対する読者の意識を高める。

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (新聞協会組織としての対応)

新聞メディアの強化に関する委員会

(15社15人の経営幹部で構成)



新聞・通信社環境対策会議

(15社15人の総務・管理部門責任者で構成)

経営トップ主導で推進

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (第3次自主行動計画の策定)

- 2007年10月 「環境対策に関する自主行動計画」
- 2013年 4月 「 同 第2次自主行動計画」

2020年数値目標（第2次計画）は、2015年度までに達成を確認。

2016年12月、新たな2030年数値目標を策定し、「**環境対策に関する第3次自主行動計画**」に移行。

移行5年目の現在、鋭意努力中。

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (2030年数値目標①)

数値目標指標は「エネルギー消費原単位」

エネルギー消費量（原油換算・kl）

÷

延べ床面積（m²）

2030年まで年平均1%削減を目指す

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (2030年数値目標②)

エネルギー消費原単位算出の分母は
「延べ床面積」

- 省エネ法準拠
- エネルギー消費の実態に合致
- 削減率が見えやすく、各社の参加を後押し
- 新聞印刷工場の性質を考慮

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (2030年数値目標②)

《新聞社の印刷工場の特徴》

- ・印刷から発送完了まで様々な工程があるうち、工場がフル稼働する印刷時間帯は短い（販売所に届ける時刻が決まっているため）。
- ・照明や空調など建屋系のエネルギー消費量が、機器類を稼働させる動力系よりもウェートが大きい場合が多い。

《新聞印刷の実態》

- ・自社・グループ会社での印刷、他社への委託など社により印刷体制が異なる。
- ・社により部数が大きく異なる。



新聞協会では今後も、生産量ではなく「延べ床面積」により、エネルギー消費原単位を算出していくことにしている。

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (参加社数・社数カバー率)

2019年度環境自主行動計画

◎参加社数 : 107社
(新聞・通信107社が対象)

◎社数カバー率 : 100%

参加社数、社数カバー率とも

100%を達成

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (達成状況) ①2013～2016年度


2030年数値目標の達成状況（エネルギー消費原単位の推移）

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
エネルギー消費原単位	95.70	90.14	86.37	83.58
年平均削減率（%）	-	▲5.8	▲5.0	▲4.4
エネルギー消費量 （原油換算・万kl）	23.38	22.27	21.55	21.37
延べ床面積（千㎡）	2442.7	2470.2	2494.7	2556.7
社数カバー率（%）	94.4	95.4	98.1	99.1
調査回答社数（社）	102	103	106	107



2. 新聞協会の環境対策の取り組み (達成状況) ②2017~2019年度

2030年数値目標の達成状況 (エネルギー消費原単位の推移)



	2017年度	2018年度	2019年度
エネルギー消費原単位	79.97	75.52	72.13
年平均削減率 (%)	▲4.4	▲4.6	▲4.6
エネルギー消費量 (原油換算・万kl)	20.54	19.19	18.49
延べ床面積 (千㎡)	2568.2	2541.6	2563.6
社数カバー率 (%)	98.1	97.2	100
調査回答社数 (社)	106	104	107

※調査は新聞協会加盟新聞・通信107社が対象 (2017年度以前は108社)。
 ※過去のエネルギー消費量などに修正が出た場合は、翌年度に修正後の数値で再計算している。
 ※年平均削減率はすべて基準年度 (2013年度) 比である。

現時点でクリア

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (具体的な取り組み①)

実施率が過半数を超える環境対策	(実施率)
不要照明の小まめな消灯	(84%)
クールビズ、ウォームビズの実施	(80.8%)
冷暖房機器の温度設定変更	(73.1%)
用紙使用量の削減	(72.1%)
照明の間引きや省エネ・人感センサー型照明器具の導入	(71.2%)
印刷損紙節減	(66.3%)
新聞梱包用バンド、古紙のリサイクル	(63.5%)
リサイクルの推進	(61.5%)
オフィス部門・印刷工場で使用する電力機器等の抑制、 省エネ対応機器の導入	(60.6%)
パソコン・OA機器等の省エネモード設定や不在時、 昼休み時の電源オフの徹底	(60.6%)

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (具体的な取り組み②)

省エネのための具体的対策

➤ 照明のLED化

社屋ビル、印刷工場等で積極的に対応

➤ 空調機器、熱源機器の更新

省エネ性能の高い機器類を順次導入

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (具体的な取り組み③)

- 新聞印刷時に発生する「損紙」の節減
- 古紙や新聞用梱包材などのリサイクルの推進
- パルプ使用量を極力減らした新聞用紙、古紙配合率の高い再生紙の使用

＜新聞の古紙回収率＞ 2019年145.1%

※新聞の古紙回収には折り込み広告も含まれるため、回収率は100%を超えている。

＜新聞の古紙回収量＞ 2019年339.2万トン（国内古紙回収量の17.1%）

【出典】2019年古紙需給統計（2019年1月～12月計）

（http://www.prpc.or.jp/wp-content/uploads/2019_nenkantoukei.pdf古紙再生促進センターHP 2020.11.20現在）

- インキ量を抑えることができる高濃度インキを使用

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (技術開発、サプライチェーンの取り組み)

技術開発は各社対応が原則

各社の努力の積み重ねにより、環境負荷低減、地球温暖化防止に大きく貢献し、サプライチェーンの取り組みにもつながっている。

《新聞協会としての活動》

- 『新聞技術』等の機関紙・誌を通じた情報共有
- 「新聞技術賞」など各種顕彰活動
- 先進社の事例見学、セミナー等の企画・実施

2. 新聞協会の環境対策の取り組み (技術開発、サプライチェーンの取り組み)

環境にかかわる企業としての他部門での社会貢献活動(サプライチェーン)

＜加盟各社の取り組み一例＞

- カーボン・オフセットの取り組み
- 植林
- グリーン購入
- 販売所などによる古紙回収
- 地域清掃活動
- 再生可能エネルギーの使用



3. 加盟各社の環境啓発活動

加盟各社の啓発活動事例

- ①朝日地球会議(朝日新聞社)
- ②日韓(韓日)国際環境賞(毎日新聞社)
- ③社内外での各種取り組み(読売新聞社)
- ④エコプロダクツ2019(日本経済新聞社)
- ⑤「衣類のリユースでプラスチックを応援！ふくのわプロジェクト」(産経新聞社)
- ⑥道新ぶんぶんの森の保育活動(北海道新聞社)
- ⑦「あしたのみどりキャンペーン」(河北新報社)
- ⑧「～美しい富士山をいつまでも～富士山クリーンキャンペーン2020」(静岡新聞社)
- ⑨SDGs 行動促し地域の取り組みを発信(信濃毎日新聞社)
- ⑩再生可能エネルギーを使った新聞製作を実施(中日新聞社)
- ⑪地元大学とSDGsについて学ぶ(京都新聞社)
- ⑫SDGs(持続可能な開発目標)の地域の取り組み紹介(山陽新聞社)
- ⑬紙面で身近な環境対策を紹介(西日本新聞社)
- ⑭環境問題に関する配信記事(共同通信社)

3. 加盟各社の環境啓発活動 ①朝日新聞社

朝日地球会議 2020 循環型経済へ 変わるか

新型コロナウイルスの影響で、10月11-15日にオンラインで開催された国際シンポジウム「朝日地球会議2020」(朝日新聞社主催)。「新しい未来のための5日間」をテーマにコロナ危機を文化財の危機管理視点からどう乗り越えるべきかを、5日間にわたって紹介し、

Loop 再使用可能な商品を販売
1. Loopサイトに登録、注文
2. 配送
3. 使用後返却
4. 検査・洗浄
5. 再配送
6. 再利用可能な商品を販売

使われる予定の製品の例
化粧品、食品、飲料、日用品

朝日新聞社 環境部

サーキュラーエコノミーを目指して

「朝日地球会議2020」のセッション「循環型経済」の様子。参加者たちはオンラインで議論を交わしている。

朝日新聞社 環境部

気候変動 若者は本当に不安 身近に災害 向き合うべきだ 経済の方向性 政府が提示を

小野のりあさん、高村のりさん、玉木保太郎さん、笑顔 活動の、朝日新聞社 環境部

脱炭素化 高まる危機感 動く企業

山口智也さん、河野英人さん、朝日新聞社 環境部

コロナと環境危機(1) 誰が日本はどの方向へ向かうか

ポール・マデン 駐日英国大使

朝日新聞社 環境部

コロナ後の温暖化シナリオ

朝日新聞社 環境部

環境問題 取っつきやすくなる

中村俊樹さん、島村雄哉さん、朝日新聞社 環境部

幸せの「ヒント」 示していきたい

朝日新聞社 環境部

朝日地球会議2020 オンラインで国内外から参加

朝日新聞社は毎年秋に国際シンポジウム「朝日地球会議」を開いている。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年は社内のスタジオからオンラインで配信。申込者は全都道府県と28カ国・地域から1万2400人に上った。国連の掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け、私たちは民主主義や気候変動、ジェンダー平等といった問題にどう取り組むべきなのか。有識者、政策決定者、企業人、一般の人々、学生がともに5日間にわたり考えた。

地球の課題解決への挑戦 あなたの行動が未来をつくる

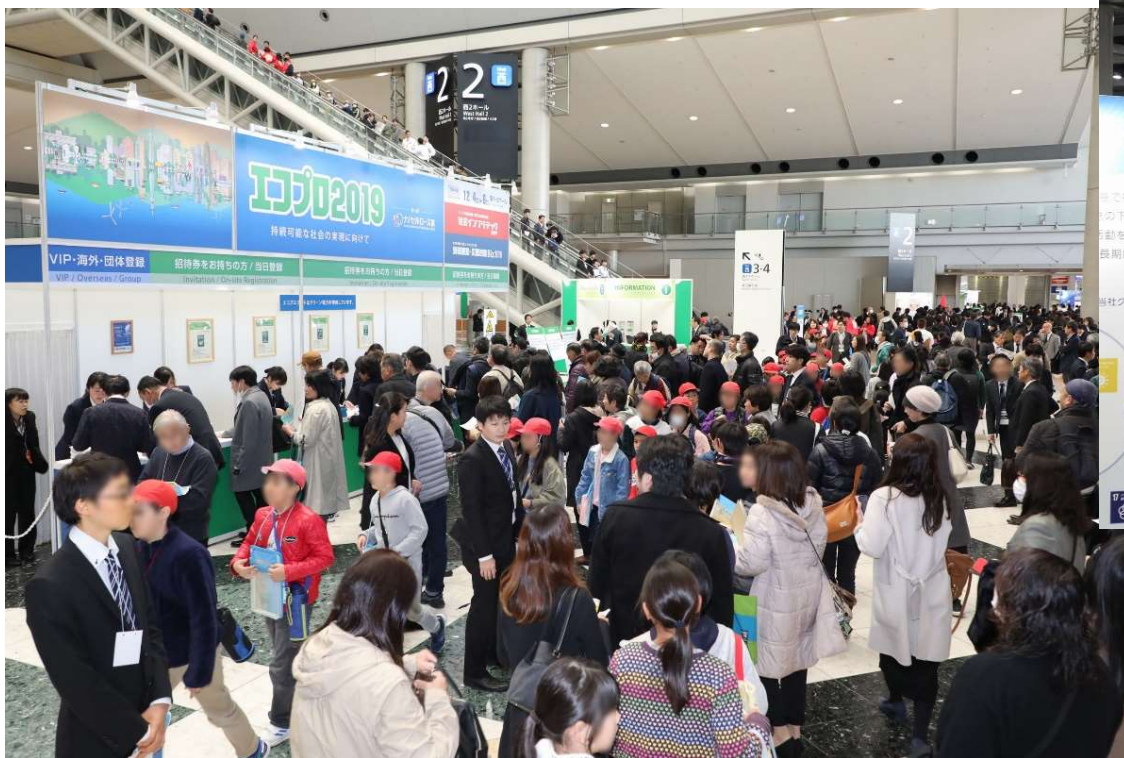
「空想じゃないといけない」と思われると、取っつきづらくなる。トミーさんの一言が響きあった人は多いと思う。私は環境分野を取材する記者だが、「素晴らしい」商品を見ても買っていない。結局は「環境に優しい」商品を買ってほしい。環境に優しい商品を買ってほしい。環境に優しい商品を買ってほしい。環境に優しい商品を買ってほしい。

3. 加盟各社の環境啓発活動 ④日本経済新聞社

エコプロダクツ2019

「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、515の企業・団体が出展。世界的な脱プラスチックの機運の高まりを受け、代替素材や製品を数多く展示した。国連の持続可能な開発目標（SDGs）に関連した体験型イベントなども設置され、幅広い年齢層が来場した。

2019年12月5日（木）～7日（土）東京ビッグサイトで開催
来場者総数 147,653人





衣類のリユースでパラスポーツを応援！ ふくのわプロジェクト

産経新聞社では家庭などから不要な衣類を寄付してもらい、売却した収益で5つのパラスポーツ競技団体を応援している。2016年にスタートし、同年と翌年度の東京都環境局「持続可能な資源利用に向けた」モデル事業に採択された。

2020年度は、コロナ禍で古布の回収を一時中止した自治体が相次ぎ、ふくのわへの問い合わせが急増している。こうしたニーズに応えるため、7月に宅配キット「おうちでふくのわ」の販売をスタート。個人が正規の料金を支払って宅配便を利用するより、低価格で提携先倉庫に衣類を送れる仕組みを整えた。また入手しづらい大型の寄付袋を提供することにより、1梱包当たりの衣類の寄付量が3倍増加した。寄付者の利便性の向上につながっている。

収益金は、コロナ禍での無観客試合のオンライン配信費用や、大会開催時のスタッフ人件費など有効に活用されている。パラスポーツの応援が寄付者のモチベーションになっており、衣類の回収量は増加している。

ふくのわでは、現在、都内を中心に定置型の衣類寄付ボックス設置を進め、サステイナブル（持続可能）な衣類の回収構築を目指している。

これまでの衣類の総回収量は約320トン、収益総額は約610万円。
(2020年11月10日現在)



道新ぶんぶんの森の保育活動

北海道新聞社は、2004年の台風で被害を受けた支笏湖畔国有林の一部の約7haを、社会貢献の森「道新ぶんぶんの森」と名付け、2009年から2013年までの5年間で計9回、トドマツの植樹を行なった。植樹終了後は、札幌の森林ボランティア協会の協力のもと、苗木補植や下草刈りなどの保育活動を年に1~2回行なっている。最初の植樹から10年以上経過したが、他の植物による影響や土地の状態、日当たりなどの条件で成長にばらつきがあり、目安と言われる人の腰の高さまで育っていないものも多い。そこで、植樹を行なった企業の責任として、また紙を大量に使用する新聞社のCSR活動の一環として、苗木を守り、育てるための保育活動を継続している。またこの活動は、札幌市内の販売所に協力いただき、回収した古紙の売却代金でその費用を賄っており、紙のリサイクルを絡めた環境活動として取り組んでいる。

一般社団法人 日本新聞協会

3. 加盟各社の環境啓発活動 ⑦河北新報社

みどりを通じて地域に憩いと世代を超えた結びつきを

百年の杜づくり
あしたのみどり
キャンペーン
キックオフ特集



杜の都の再生を目的に、2009年にスタートした「あしたのみどりキャンペーン」。震災後には、失われた「みどりの再生」をテーマに加え、展開していった。15年間で約750万羽を、仙台市の百年の杜づくり推進基金および震災復興を支援する市民団体に寄付し、被災地でのみどりを植える復興支援活動に役立てられました。16年からは、幼稚園や地域の団体などの協力を得て、花壇づくりを支援、地域コミュニティの再生に寄与する取り組みを続けてきました。

杜の都のみどりを育むことを目的に、2009年にスタートした「あしたのみどりキャンペーン」。震災後には、失われた「みどりの再生」をテーマに加え、展開していった。15年間で約750万羽を、仙台市の百年の杜づくり推進基金および震災復興を支援する市民団体に寄付し、被災地でのみどりを植える復興支援活動に役立てられました。16年からは、幼稚園や地域の団体などの協力を得て、花壇づくりを支援、地域コミュニティの再生に寄与する取り組みを続けてきました。

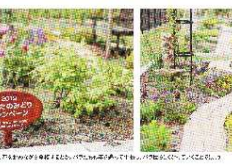
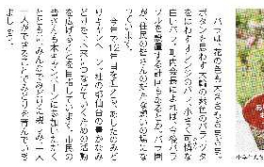
ともに育み、より豊かな
「杜の都 仙台へ」



「杜の都のみどり」の再生を目的に、2009年にスタートした「あしたのみどりキャンペーン」。震災後には、失われた「みどりの再生」をテーマに加え、展開していった。15年間で約750万羽を、仙台市の百年の杜づくり推進基金および震災復興を支援する市民団体に寄付し、被災地でのみどりを植える復興支援活動に役立てられました。16年からは、幼稚園や地域の団体などの協力を得て、花壇づくりを支援、地域コミュニティの再生に寄与する取り組みを続けてきました。

「杜の都のみどり」の再生を目的に、2009年にスタートした「あしたのみどりキャンペーン」。震災後には、失われた「みどりの再生」をテーマに加え、展開していった。15年間で約750万羽を、仙台市の百年の杜づくり推進基金および震災復興を支援する市民団体に寄付し、被災地でのみどりを植える復興支援活動に役立てられました。16年からは、幼稚園や地域の団体などの協力を得て、花壇づくりを支援、地域コミュニティの再生に寄与する取り組みを続けてきました。

「杜の都のみどり」の再生を目的に、2009年にスタートした「あしたのみどりキャンペーン」。震災後には、失われた「みどりの再生」をテーマに加え、展開していった。15年間で約750万羽を、仙台市の百年の杜づくり推進基金および震災復興を支援する市民団体に寄付し、被災地でのみどりを植える復興支援活動に役立てられました。16年からは、幼稚園や地域の団体などの協力を得て、花壇づくりを支援、地域コミュニティの再生に寄与する取り組みを続けてきました。



2020 あしたのみどりキャンペーン 本日スタート!

あしたのみどりキャンペーンは、みどりを育む地域
復興の支援とともに、一人一人にみどりを育む
ための活動を広げることを目指し展開します。

2020年あしたのみどりキャンペーン期間 6.30(Tue)~12.31(Thu)

みんなで育もう! あしたのみどり

わたしの好きな「みどりのある風景」募集

市内市内で、あなたの好きな公園、森林、田舎、緑地、公共施設、生
活施設、道路、河川、緑地、その他、あじさいや花壇がある公園
に、あじさいや花壇の写真を、写真アプリで撮影して、あじさいや花壇を
思い、お気に入りの写真、あしたのみどりキャンペーンのWEB
サイトに、あじさいや花壇の写真を投稿してください。

あしたのみどりキャンペーンWEBサイト
の投稿フォームから必要事項を入力し、
画像を添付の上、投稿してください。

応募期間: 10月31日(土)まで
公開期間: 6月30日(火)~12月31日(木)

期間中は毎日、あじさいや花壇の写真が
随分と見られます。あじさいや花壇の写真を
投稿した方には、あじさいや花壇の写真を
プレゼントするチャンスも
あります。WEBサイトをご覧ください。

「植樹・花壇づくり支援」希望団体 募集

仙台市内を拠点とする、町内会、幼稚園、保育園、学校、
地域の非営利団体などで、地域で花壇づくりなどの支援
を実施する団体を募集します。地域で花壇づくりを
実施する、種まきなどの活動を応援しています。

あしたのみどりキャンペーンのWEBサイト、応募
フォームから希望団体の情報を、ご応募ください。

応募期間: 7月31日(金)まで
種まき・花壇づくり支援期間: 9~10月
募集額: 2~10万円を予定
応募は、あじさいや花壇の写真を添付の上、
http://www.a-midori.jp
より応募ください。

あしたのみどり キャンペーン

杜の都のみどりを育むことを目的に、
2009年から継続して行なっている
事業で、今年で12年目を迎える。
東日本大震災後は、「失われたみど
りの再生」をテーマに加え、展開し
ている。

(2020年6月30日付朝刊)

3. 加盟各社の環境啓発活動 ⑧静岡新聞社

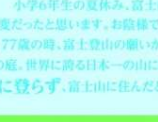
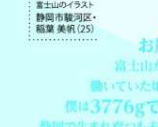
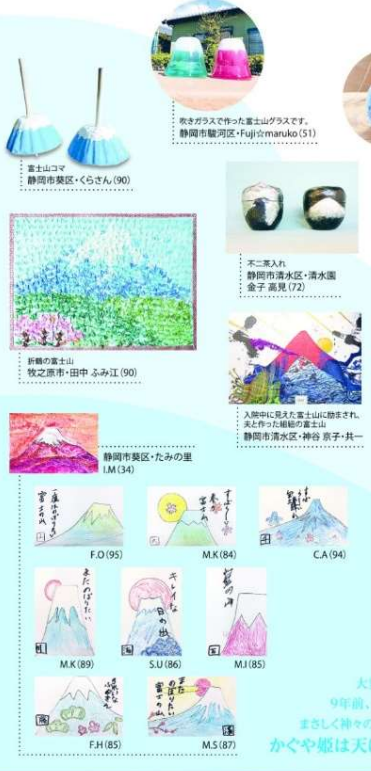
(企画制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局)
 一部のメッセージは、文章を修正しています。
 写真は、応募時のものです。

伝える

山頂から見た絶景の美しさに思わず息をのんだり、悠然としたたずまいに感嘆されたり、人それぞれの富士山への思いを集めてみると、時代を超え、地域を超えて、人々にたくさんの“語り部”をしてきた富士山の優越の高さが、改めて実感できます。

美しい富士山をいつまでも

時代を超え、地域を超え愛される私たちの富士山。登山道が年間を通じて閉じられ、富士山が休む“する”1年を、長年の課題である環境保全について考えるきっかけにしたい。8月に掲載した第1弾の紙面に続き、県民の皆さまから、富士山への思いを込めたメッセージや、作品などを集めました。



孫の初登山は9年前、タオルをほっかむり7合目まで。この寒さはなあに？ いつか頂上へ、誰と登るかな。(袋井市・空沢 力(72))
 夏の夜、富士山の山小屋や登山客の灯を見ると、心が安らぎます。きっと、富士山は人々にとって、心と身体を休め、整える場所なのだと感じています。(静岡市駿河区・りつきのママ(32))
 初めて富士山に登ったのは小学生の時、富士の万年雪を食べると長生きするよとガイドさんに教えてもらい一口。貴重な体験です。(三島市・ちはるん(49))
 瀬としてそびえ立つ、堂々とした世界の富士山。平凡の美と広き心を教えてくれて、ありがとう。(静岡市・クラちゃん(62))
 旧東海道の安倍川橋を西から東へ歩くと、富士は突然視力満杯に飛び込む。君は知っているか、その華麗な姿で私を打ちのめしているのを。(静岡市駿河区・様 おこせ(78))
 夏の夜、家から眺めるのが好き。山小屋や登山者のヘッドライトの光。今年は誰も来ないけど、誰もあなたを忘れない、いつも思っています。来年こそはと。(富士宮市・なつちゃん(54))
 太古の昔から移り行く世の中を、瀬とした姿で見つめてきて、いったいどんな思いか？ ぜひ来夏の登拝で聞いてみたい。(静岡市・松本 孝直(59))
 あふれるゴミと登山客 休まる時がなかったね ここしばらくは我慢してあなたの雄姿 車窓から 富士は日本一の山 (浜井興教習生・56年前の富士山旅・ふみちゃん(67))
 今こそ富士を眺めよう。「ふもとつばら」のキャンプ場から毛無山へ登ると、頂より眺める富士山は最高!(掛川市・気まぐれ山行老練(70))
 23年前、富士山への手紙で岡山県の女子と友達になり、二人共家庭を持ちました。富士山これからも元気で!(三島市・上野 公美(39))
 毎年作る自分の名刺には必ず富士山の写真を入れている、銀行職員の名刺みたいだねと言われたことがある。(静岡市駿河区・Miki Rope(23))
 外出する頻度が減り 富士山を見上げる機会も減った でもそこ大好きな富士山はある いつもそこに富士山はいる かわらず見守り続けている (浜松市・ウツレ(51))
 ながめよし 登って楽し 富士の山 共に歩いた 友に会いたいノ 里山にかくれて 見ぬ 富士の山 外出に見たら わあ我 叫ぶ (島田市・おはつあは(92))
 71才、登山歴4回。5回目は、8年前生まれた孫娘が小学3年生になったらみんなと決めていて、それが来年!! 叶いますように。(静岡市・こっちゃん(67))
 雄然の世界遺産富士山を、未来永劫に譲げよう。(沼津市・平田 裕代(79))
 紺碧の空に秀でる富士の峰、時に雲のペール被りて。見るもよし、登るも好しと我語う、米寿を記して、13度目の登拝成す。(神奈川・岡崎 真希・森村 三恵子(88))
 前略 私のふる里は青森、昔おふろは銭湯でした。お湯につかり前を見ると大きな富士山が画かれました。ほら見て?(静岡市駿河区・新村 敦子(80))
 胃の手術で二十日程入院した。術後歩いた方がよいというので、院内を歩いた。廊の突き当たりで富士が見えた。生きる励ましとなった。(原崎市・伊藤 真一)
 兵庫生まれの父は名を富士男といい、同じ名を持つ富士山の見える所で暮らしたいと伊豆に住み、私達が生まれました。今、父から四代目の子供が富士山を見ながら歩き、通学しています。ありがとう、富士山。(伊豆市・山田 尚(81))
 「ふ」るさとの「じ」まんは「き」わやかな ふじさ「ん」。コロナ時代をどう過ごすか、笑顔と元気で、富士山と共に生きる。(富士市・山口 礼子(68))
 新婚の父母の登拝写真。私がお願にいたことに気付かなかったそう。62年後、その私も登頂。富士山に、亡き父の笑顔が重なる。(静岡市清水区・さとみ(63))
 お腹にぼっこり、宝永山の噴火のあと穴の空いた富士山が大好きです。しっくりきます、マイ富士山です。(静岡市駿河区・ヤッチャん(50代))
 富士山が大好きで、雪が降った富士山は狂喜です。富士山を眺めていると、日常の悩みが吹っ飛んでいきます。(掛川市・櫻口 祥子(70))
 働いていた頃、富士川製薬からの富士山を見て小さい自分の心を反省し、何度も元気をもらったよ。(富士市・ちんちゃんママ(64))
 僕は3776gで産まれました。日本一の富士山と同じなので嬉しいんです。これから真っ白になる富士山を見るのが楽しみです。(静岡市駿河区・明彦 大智(5))
 静岡で生まれ育つも未だに登頂したことのない日本最高峰。生きているうちに一度はその頂に立ってみたいと思う。(掛川市・滝本(48))
 小学6年生の夏休み、富士山に登頂! 一生大切な思い出です。身体検査合格者のみの参加で、案内人さん、引率の先生。大変だったと思います。お陰様で、82才、元気です。(静岡市駿河区・清水 裕子(82))
 9年前、77歳の時、富士山の願いが実現し、喜びに震えた。下界の景観の素晴らしい。画面が鏡のように映り、緑の樹林は麗か。まさしく神々の庭。世界に誇る日本一の山に感謝!(伊豆市・三井 美子(86))
 かぐや姫は天に登らず、富士山に住んだとの言い伝えがあります。冬になり雪が降ると、登山道の左側の門みに積もり、ドレス姿が浮き出ます。雪姫が、かぐや姫だと思っています。(富士市・ゆき(84))

~美しい富士山をいつまでも~ 富士山クリーンキャン ペーン2020

登山道が年間を通じて閉じられた中、あらためて富士山の環境保全について考えるきっかけにするのが目的。

8月と9月に、県民から寄せられた、富士山への思いを込めたメッセージや作品などを掲載した。

本企画の協賛金の一部は、地元の官民組織に寄付。

(2020年9月15日付紙面)

SDGs 行動促し地域の取り組みを発信

国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」について知り、学び、行動につなげてもらおうと、2020年9月27日付まで9回にわたり、広告企画「NAGANO SDGs PROJECT」を展開。長野県内の児童生徒や教員を対象にした出前授業やセミナーなどを開催し、紙面で参加を呼び掛けたり、学校の取り組みを紹介したりした。

また、若者向けのページ「信毎ヤンジャ」では「実践SDGs」を連載、県内の企業や学校などの環境関連活動を取り上げ、身近な地域での実践や課題を発信した。

NAGANO SDGs PROJECT
ひろげるをつづける。

SDGsの「S」は「Sustainable＝ムリなく続けられる」の頭文字。
なので、当然、NAGANO SDGs PROJECTは2020年シーズンもつづけます。
しかし本日は、プロジェクトの経緯は、「自然」と書えるほど簡単ではありません。
つづけられるのは、ご支援をいただけた皆さまのおかげです。
ありがとうございます。そして、これからも一緒にSDGsの輪をひろげていきましょう。

2019-2020シーズン
たくさんの人が1歩目を踏み出した、この1年。
さまざまな学校や企業、団体の方々と一緒にSDGsについて考え、そしてたくさんの方々が参加されました。

2020-2021シーズン
つづく、SDGs。2020年もどうぞよろしく。
プロジェクトはさらに進められています。みんなが一歩ずつ理解を深めています。

みんなのSDGs宣言
今年もみんなの宣言を募集します
SDGsを身近に感じ、実践したいという思いを、一言一句でも構わずに書いてください。あなたの宣言が、誰かの励みになります。

SDGs実践プログラム
SDGs実践プログラム
SDGs実践プログラム
SDGs実践プログラム

ひろげるために。つづけるために。

NAGANO SDGs PROJECTは下記協賛パートナーのご支援をいただけて運営しています。2019-2020シーズンのご支援ありがとうございました。

協賛企業: SMBC日興証券、キャセイエア、EPSON、大和証券、野村證券、ホクランハウス、その他多数の企業。

(2020年3月22日付朝刊)

SHINMAI YOUNG JOURNAL
信毎ヤンジャ

実践 SDGs 8

「持続可能」から考える未来

小谷中学校（小谷村）
総合学習の一環で地元に関わり

職場体験から先の視点で

小谷中学校の生徒が職場体験を通じてSDGsについて学び、未来を考えたことについて述べている。

小谷中学校の生徒が職場体験を通じてSDGsについて学び、未来を考えたことについて述べている。

小谷中学校の生徒が職場体験を通じてSDGsについて学び、未来を考えたことについて述べている。

(2020年8月14日付朝刊)

再生可能エネルギーを使った新聞製作を実施

東京本社（東京新聞）は、環境にやさしい新聞づくりを目指し、2019年11月1日からグリーン電力証書を購入して再生可能エネルギーを使った新聞編集を行っている。再生可能エネルギーの重要性を報道している新聞社として、自らも再生可能エネルギーを使った新聞づくりができないか、そんな思いから導入に踏み切った。



3. 加盟各社の環境啓発活動 ⑪京都新聞社

地元の芸術系大学がSDGsについて学ぶ授業に地元企業の一員として協力。京都でのSDGsの取り組みについて、学生たちが小冊子やサインボードにまとめる取材協力を行った。この授業の仕上げとして、京都市動物園内のライブラリーで成果物の展示やギャラリートークが行われた。大学生たちとSDGsを考える良い機会となった。



サインボード



▼実際の展示風景(一番右のもの)



▲実物の拡大写真

▲実際の展示風景

地元大学とSDGsについて学ぶ



小冊子展示



開場風景

「もったいない宣言」で決意表明

福岡大木町「ごみ抑制の仕組み」



多くの客でにぎわう地産地消レストラン「アリとニコッコエくるまん」

「もったいない宣言」を掲げ、地産地消を推進する地産地消レストラン「アリとニコッコエくるまん」が、11月10日、地元産品を使ったメニューを披露した。この日は、地元産品を使ったメニューを披露した。この日は、地元産品を使ったメニューを披露した。この日は、地元産品を使ったメニューを披露した。

「もったいない宣言」を掲げ、地産地消を推進する地産地消レストラン「アリとニコッコエくるまん」が、11月10日、地元産品を使ったメニューを披露した。この日は、地元産品を使ったメニューを披露した。この日は、地元産品を使ったメニューを披露した。この日は、地元産品を使ったメニューを披露した。

紙面で身近な環境対策を紹介

身近な環境対策として、自治体の取り組みや、記者による体験レポートなどを継続的に紹介

(左) 大木町の「ごみ抑制」の取り組みについて、6回にわたり紹介。

(右) 記者のエコ体験談や、家庭で気軽にできるエコ対策を紹介。

「子孫につけは残さない」“迷惑施設”の隣に地産地消レストラン



「子孫につけは残さない」“迷惑施設”の隣に地産地消レストラン

「子孫につけは残さない」“迷惑施設”の隣に地産地消レストラン

循環の輪を回す「教育の力」

福岡大木町「ごみ抑制の仕組み」



「こうやって捨てました」と、家庭での計量シーンを再現して見せる社会人高さん。(13)

循環の輪を回す「教育の力」

循環の輪を回す「教育の力」

小学生に町職員が分別指南 家庭で実践「食品ロス減った」



小学生に町職員が分別指南 家庭で実践「食品ロス減った」

小学生に町職員が分別指南 家庭で実践「食品ロス減った」

2週間脱プラ生活 やってみたい

「何もかも買いつらい でも減らせる気がする」

「何もかも買いつらい でも減らせる気がする」

レジ袋使わず生ごみ処理

「生ごみ処理」

「生ごみ処理」

新聞紙で代用 ひと工夫

「新聞紙で代用 ひと工夫」

「新聞紙で代用 ひと工夫」

健康か食

「健康か食」

「健康か食」

環境問題に関する 記事配信

「地球環境2020」。読者に環境問題について関心を持ってもらうための企画配信。

新型コロナウイルスを含む感染症拡大が温暖化によって加速している可能性についてまとめた。

(2020年4月28日付中国新聞日刊)

中国新聞
2020年(令和2年)4月28日(火曜日)
中国新聞社

中国新聞 SELECT

4月28日

中国新聞社
 〒720-8577 鳥取県鳥取市東町1-1-1
 〒720-8577 鳥取県鳥取市東町1-1-1
 60円(1部売り)



未知らのウイルスを持っている可能性が指摘されるオオコウモリの子種=2017年11月、モルディブ (共同)
 ④ アング熱を媒介するヒトスジシマカ。地球温暖化の進行で分布域を広げることが懸念されている。(米・疾病対策センター提供)
 ⑤ マレーシアで摘発された違法取引で押収されたセンザンコウ。新型コロナウイルスはまん延との関連が指摘されている哺乳類だ=2009年(©E・JOHN/TRAFFIC)

感染症 拡大



温暖化 の影

変わる動物分布 増す接触リスク

「地球温暖化の進行は動物の分布を変え、ウイルスが野生動物から人間に移行する機会を大幅に増やします。今年1月、米シゴンタウン大学の研究グループは、こんなコンピュータシミュレーションの結果を発表し、新たな動物由来感染症発生の危険性を警告しました。

新型コロナウイルスは中国のクウモリのウイルスが、別種の哺乳類を経て人間に感染するようになっただと考えられている。今回のまん延は、温暖化が関連していることを示す証拠はないが、グループは、移動範囲が大きいクウモリが、特に感染拡大に大きな役割を果たすと指摘しており、今後の対策を考える上で、注目される。

研究グループによると、人間に感染する可能性があるウイルスは最大60万種ともいわれ、その多くが野生動物を宿主としている。今後の温暖化の進行によって、3070種の哺乳類の分布が変化し、人間が暮らす場所とより重なるかなどをコンピュータを使って予測したところ、温暖化が進むと、標高の高い地域や高緯度地域に多くの哺乳類の分布が広がり、接触の機会も増えてウイルスが人間をきめた他の動物種にも感染する可能性が大幅に増えるとの結果が出た。

新たな動物由来感染症の原因となったりするのは、ネズミなどの齧歯類、コウモリ、人間を捕食することがある大型哺乳類だったが、中でも移動能力が高いクウモリのリスクが大きいことも分かった。

ウイルス感染の可能性が高まるのは、アフリカ東部、インド、中国東部、フィリピンなどの人口が多い国々で、グループは、これらの地域で感染リスクを高めることが重要だとした。

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、温暖化が進むと、デング熱やマラリアなどを媒介する蚊の分布域が拡大、これらの感染症にかかるとの数が増えることを予測している。蚊が媒介するアフリカのリフトバレー熱、北米や中南米で確認され、齧歯類が媒介するハンタウイルス肺症候群などが、特に温暖化との関連が高いとされる。

ショーショウ大の別の研究グループは、温暖化が進むと今世紀末にはヒトスジシマカなどが媒介するデング熱やチングニア熱の感染者が10億人も増える可能性があることを指摘。中国の研究グループは、温暖化が進むと宿主の宿主である巻き貝の数が増え、住血吸虫が増えることを警告している。

日本の環境省も、今後、デング熱の感染拡大、日本脳炎やマラリアの発生などが懸念されるとしている。

持続可能な社会再生を

動した人の数は世界全体で40億人を超え、過去30年間で4倍になった。世界貿易も拡大した。一方で、熱帯林の破壊などによっても温室効果ガスの排出量が増え、吸収量は減った。急速なグローバル化の進展と開発行為によって、人やモノの動きに伴う温室効果ガスの排出量が急増すると同時に、一部地域に限られていた感染症が、あっという間に拡大することになった。温暖化が進むと永久凍土の下に閉じ込められていた温室効果ガスのメタンやウイルスが放出されることも懸念されている。

この二つの問題の真の原因は、目先の経済成長を優先する社会や経済を築き、それをよ



NPO法人環境文明21・藤村コノエ代表の話 気候の危機と、今回の新型コロナウイルスのまん延は、共通の根を持っていると言える。国際航空運送協会(IATA)によると、2017年に航空機で移

地球温暖化の進行は動物の分布を変え、ウイルスが野生動物から人間に移行する機会を大幅に増やします。今年1月、米シゴンタウン大学の研究グループは、こんなコンピュータシミュレーションの結果を発表し、新たな動物由来感染症発生の危険性を警告しました。

4. 最後に

- 戸別配達網によって紙の新聞が読者に届けられることが日本社会の安定に寄与している。
- 新聞はほとんど再生紙を使っている。
- 各社は従来から啓発記事などを積極的に発信して、環境問題の重要性を読者に伝えてきた。同時に自社ビルや関連施設などで省エネに努力し続けている。

日ごろはスクープ競争でライバル関係にある加盟各社だが、環境問題についての考え方は、各社の経営トップを含め加盟全社で共有している。

新聞・通信各社は

今後民主主義の発展に寄与し、
環境負荷低減の牽引役となるよう
業界を挙げて引き続き努力する。

日本新聞協会ホームページ「Pressnet」

「新聞界における環境への取り組み」

<https://www.pressnet.or.jp/about/environment/index.html>

(注) 当資料に収録する記事やデータ類の無断利用、転載を禁じます。